



建設技能労働者の生涯像について

建設技能労働者の生涯像を明確にするには、まず、その「あるべき技能者像」を明確にする必要がある。

このため、協議会構成団体の代表的な職種に関する技能者像を明らかにした。(別表)更に、次のような考え方をもとに整理を行い、図(1)のとおりその生涯像を描いたものである。また、この生涯像を実現するための教育・訓練の「場」について図(2)のとおり整理を行った。

なお、ここにおける生涯像は、企業規模、現場の規模・組織編成等によって複合的になることは否めず、あくまで整理上の1形態として描いたものである。

1. 入職後、建設技能労働者としての総合的な能力を形成し、技能が熟練の域に達するまでを、〔技術レベル〕、〔技能レベル〕、〔教養レベル〕の3要素を軸として捉え、その上昇過程を〔見習工〕、〔技能工Bクラス〕、〔技能工Aクラス〕、〔職長〕の4段階に区分した。
なお、それぞれの技能レベルは概ね次のとおりとする。
(1)見習工……………基礎技能、知識の習得段階
(2)技能工Bクラス……………中級技能、2級技能士等
(3)技能工Aクラス……………上級技能、1級技能士等
(4)職長……………専門分野における施工管理能力を有し、総合工事業者との接点となる
2. 技能が熟練の域に達した後は、〔そのまま技能を生かし、技能者としての道を歩む〕〔施工管理能力を更に伸ばし、技術者としての道を歩む〕、〔経営管理能力をつけ、経営者の道を歩む〕等、様々な生涯像が考えられる。
ここにおいては、〔技術レベル〕、〔経営レベル〕、〔社会レベル〕の3要素が軸となる。

(注) 1. 図(1)及び図(2)についてはそれぞれ「申合せ」のポイント(P.4)における図(Ⅲ)(P.7)及び図(Ⅰ)(P.5)として掲載済のため省略